

「中央アジア+日本」対話 第5回東京対話
松山副大臣基調スピーチ

平成25年3月15日

1 はじめに

「中央アジア+日本」対話・第5回東京対話の開会に際し、中央アジア各国からの参加者の皆様に心から歓迎します。また、御出席を御快諾いただいた日本側参加者の皆様にも深く感謝申し上げます。

本日は、我が国の学界や経済界において中央アジアに縁の深い方々や、学生はじめ若い世代の方々にも多数出席いただいております。これは、日本と中央アジアとの協力が幅広い分野で着実に進展していることの証左であると思います。

2 「中央アジア+日本」対話の意義

日本と中央アジア諸国は昨年外交関係樹立20周年を迎えました。それを記念して昨年11月に東京で開催された「中央アジア+日本」対話・第4回外相会合では、各国から外相クラスの出席を得て、これまでの20年間の総括を行いつつ、日本と中央アジアのパートナーシップを一層高いレベルに引き上げることを確認することができました。

このように我が国は中央アジアとの関係強化に努めておりますが、我が国にとっての中央アジアの重要性は次の三点にあると私は考えます。

第一に、中央アジアがユーラシア大陸の東西南北を結ぶクロスロードに位置しているという、地政学的観点からの重要性です。地政学上の要衝にある中央アジアが安定して発展することは、ユーラシアをはじめ国際社会全体にとっての利益となります。

第二に、中央アジアは、(1)アフガニスタンの安定化、(2)テロ・イスラム過激主義の拡大防止、(3)麻薬取引の取締まり、といった国際社会が直面している喫緊の課題に対処していく上で鍵を握る地域であることです。

第三に、中央アジアは、石油、天然ガス、ウラン、レアメタル・レアアース等の豊富な天然資源を埋蔵しており、資源外交の観点からも我が国にとって大変重要な地域です。

こうした重要性を有する中央アジア諸国は、多様性に富むと同時に、歴史や文化等において共通する側面も多く有しております。また、各国の国造りに向けた課題には共通するものが多々あります。こうした観点から、中央アジア諸国の安定的な発展には、地域共通の課題に共同で対処し、地域協力を推進していくことが効果的ではないでしょうか。中央アジア地域経済協力(CAREC)等の枠組を通じて既に開始されている地域協力プロジェクトも存在しており、こうした流れを一層強化していくことが重要と考えます。

日本は、中央アジアにおいて地域協力を推進するためのいわば「触媒」となって、中央アジアの自立的・安定的な発展を支援してきています。また、「中央アジア+日本」対話もそのような目的で立ち上げられた枠組みです。

3 第5回東京対話の狙い：ASEANの経験に学ぶ

「中央アジア+日本」対話の立ち上げ以来、これまで4回の外相会合を重ねることで、「域内の国々がともに共通の課題に取り組む」という理念が広く共有されるようになったと考えています。

本日の会合では、貿易・投資分野における地域協力の推進をテーマとして取り上げます。中央アジアにとって、これまでのASEANの経験が有益なのではないかとの問題意識から、ASEAN関係の有識者の方々をお招きして、近年目覚ましく地域協力を発展させてきたASEANの成り立ちや経済統合の現状、更にその発展過程において深く関与してきた日本の役割等につき語っていただきます。

引き続き、中央アジア諸国の出席者の方々より、中央アジアにおける貿易・投資の進展に向けた地域協力のあり得べきアプローチや、その実現に向けた課題、着手すべき優先分野等について述べていただきます。その上で、会場を交えて意見交換を行う予定です。

中央アジアと同様、ASEAN諸国も、産業構造や経済政策、市場規模といった点において多様性を有しています。こうした環境下において、ASEANは、加盟国間で対話を重ねることによって信頼醸成を進め、各国が共通利益を得られる分野から着実に地域協力を進めてきました。その過程で日本は、社会インフラ整備から遺跡の修復まで幅広い分野で協力してきました。近年は、開発が遅れている地域の社会インフラ整備や人材育成に力を入れ、ASEANの域内格差是正に尽力しています。ASEANが辿った道筋は、中央アジアにとって一つの参考になるとともに、そのさまざまな意味での「教訓」を活かしていくことで、より効率的に地域協力をすすめることができるのではないかと考えます。本日の議論内容が、中央アジアの貿易・投資促進に向けた地域協力を推進していく上で有益なものになると考えます。

4 結び

ASEANの事例を踏まえた知的対話を行うという今回のアプローチが、中央アジアにおける地域協力を巡る議論に新たな視座を提供することになることを期待しています。

ご静聴ありがとうございました。